

わずか5年で世界の舞台へ 目標は2018年の冬季オリンピック

糸島高等学校2年生
福岡アウレオサイエンス所属
辰巳 香子さん
JOCジュニアオリンピック
第31回全日本ジュニアショートトラック
スピードスケート選手権大会 2位



「世界の舞台で活躍し、2018年の冬季オリンピックに出場することが目標です」。真剣な眼差しでそう語るのは、糸島高等学校2年生の辰巳香子さん。昨年11月、山梨県で開催されたJOCジュニアオリンピック大会のショートトラック競技で準優勝を果たし、今年の2月にオーストラリアで開催される世界大会への出場が決定した辰巳さんに話を伺いました。

大好きな陸上。転機の訪れ：
以前から走ることが大好きで、小さいころは、地元の陸上クラブで練習していました。小学5年生になると難関といわれている福岡県のタレント発掘事業のオーディションを受け入団。スケートはもちろん、さまざまなスポーツを経験させてもらいました。



他のメンバーと練習に励む辰巳さん(先頭)

大きな転機が訪れたのは、休日たまたま行われていたスケートイベントのこと。初めてショートトラック用のスピード靴を履かせてもらい滑ったところ、フィギュアスケートには無かったスピード感に一気に引かれショートトラックの世界に入ることを決めました。

過酷な練習の日々
糸島にはスケートの練習ができる場所がありません。毎日、福岡空港近くのアクシオン福岡まで電車・バスでの往復の日々です。今では週5日、学校の授業が終わるとすぐに、電車に飛び乗り練習場へ向かいます。

雨の日も雪の日も、学校のテスト期間中も練習を怠ったことはありません。大会前は体力・精神面を整えるために、自分を極限まで追い込まなければならず、かなりの苦痛を強いられます。それでも世界の舞台に立つという目標と、私のために食事の管



うちの子紹介17
林 直生くん(次男・右)
林 大生くん(三男・左)
(6歳と1歳/二丈深江)
武浩さん・春美さんの次男と三男

4 人兄弟で大好きなお兄ちゃん、お姉ちゃんに囲まれて、いつも元気いっぱい直生と大生です。虫取りをするのが大好きな直生は、いつも外で元気に遊んでいます。大生はいつもニコニコ笑顔で、お父さんとお母さんを元気づけてくれます。これからも元気いっぱい、素直に成長してね。

市民のみなさんのお子さんへのメッセージをお待ちしています。
申し込み・問い合わせ/糸島市秘書広報課 ☎(332)2111



市役所を訪れ、松本市長に報告

※ショートトラックとは、1周111.12mのトラックを周回し、その着順を競い合う競技をかけていきます。

糸島市社会福祉協議会 加藤博貴さん



平成23年11月13日、23日、東日本大震災被災地支援のため訪れた福島県二本松市。そこでの仕事は、福島第一原発から10〜30km圏内に位置する浪江町の住民が暮らす仮設住宅での「生活支援相談員」の育成指導でした。

現在、浪江町民のうち約2千世帯の住民が、4地区27か所の仮設住宅で生活を送っています。互いに見知らぬ人たちの集まりの中でどのようにコミュニケーションを形成していくのか、高齢者などへの訪問・見守りをどう進めていくのか、一緒に考えてきました。今回、生活支援相談員となることを希望されたのは、漁師・農家・主婦など28人。全員が被災者でもあります。これから冬を迎える中、生活支援相談員の個別訪問は孤独死を未然に防ぐ「命をつなぐ訪問」とても重要な活動になるでしょう。

自主防災組織の充実を
災害時に備え、現在糸島市社会福祉協議会では「災害時要援護者支援台帳」を整備し、

誰がどんな支援が必要かの把握に努めています。平成23年11月末現在で約3800人の登録がありますが、未登録の人についても、同意を得られた世帯から民生委員さんの協力のもと、一軒一軒回って聴き取り調査を実施しています。

ただ、台帳ありきではないと思っています。重要なのは、台帳を活用する場であり、受け皿となる自主防災組織をいかに機能させるか。災害時、誰が受け入れ見守っていくのか、住民自治の中で柔軟・迅速に対応できる体制を作り、運営しなければならぬと強く認識しています。

市主導での強いネットワーク作りが急務
浪江町は原発立地町である双葉町とはわずか2kmの距離。しかし、事前に電力会社と安全協定を結んでいなかったため、事故後の連絡は浪江町には一切入らず、支援

しつかり自信を持ち、一つ一つ結果を残しながら、「体力」と「勝つための技術」にさらなる磨きをかけていきます。

対する対応も双葉町と大きな格差があったようです。糸島市では、こうしたことを教訓に、事前にしつかりとした安全協定を締結すべきです。そして、市が強いリーダーシップを発揮し、市内の福祉施設や自主防災組織とのネットワークづくりを進めなければなりません。その際、寝たきりの人、障がい者、妊婦、乳幼児など、あらゆる災害弱者の目線から避難所を指定するなど、実効性のあるものとなることを願っています。



浪江町の「生活支援相談員」ミーティングの様子